

わがまち歴史散歩

延宝7年「池田庄検地帳」からわかること



▲延宝7年「池田庄検地帳」

○延宝7年「池田庄検地帳」

右のような表題を持つ検地帳が池田市立歴史民俗資料館に1冊保存されています。延宝7年といえは西暦1679年。今から約340年前作成の古文書です。表紙の大きさは縦27・5cm、横22cm。まずまず標準的ですが、その厚さはなんと14cmもあって、白紙を除いた墨付きの紙が752枚に及ぶ、なかなか他に類例のない巨冊です。

あまりに厚くて傷みやすいためか、厚さ4cm余ずつで3分割し、それぞれ銅製の蝶番ちようばんをつけ、それを一連の形にしっかりと連結し、傷みを防ぎ、扱いやすくする工夫をしています。それでも、いったん紙をめくり始めると紙面の断裂

○「池田庄検地帳」の調査

検地帳というのは、豊臣政権も徳川政権も在地支配の基本資料として重視し、実地に担当者を派遣し作成したものです。検地帳は土地の利用状況や所有関係を記録したものであって、「池田庄検地帳」は、江戸時代前半期の池田を知るためには最も基本になる史料といつて間違いありません。

しかし、この検地帳に記載されている土地数は4千4百筆以上。年貢負担者などは何百人になるか、ちよつと見ただけでは推測もできません。また、土地が所在する場所を確定しようとしても、検地帳に表記された小字こあざの位置がいまや多くは分からなくなっています。

こうしたこともあってか、『新修池田市史』(第2巻)も『池田市史』概説編もその存在は紹介して、中身の分析にまでは及びませんでした。もっとも、豊臣政権の時代に作成された畑村・神田村の文禄3年(1594)検地帳については詳細な検討が行われています(たとえば第2巻では10〜19ページ)。しかし、それをもって大

な町場を抱えた池田庄の説明に代えるわけにはいかないのではないのでしょうか。

今回は、この検地帳の記載をもとに池田庄に関わる基礎的数字をとりあえず確認しておきましょう。

○池田庄の概要

まず、池田庄の概要です。ここでは、検地帳の最後の所に細かく書かれている数字を計算して一覽表を作ってみました。土地は年貢地と、年貢の免除された「除地」、

そしてそれ以外の土地といったように、3種類に分けられていることが分かります。池田庄は町場を構成する屋敷(おそらく一覽表に見える「屋敷(1)」を中心にその周りに広大な耕地が広がっていたようです。

次号で改めて検討してみようと考えています。

(市史編纂委員会委員長・小田康徳) ◆問い合わせは生涯学習推進課市史編纂 ☎754・6674

(表) 延宝7年検地帳に見る池田庄概要

		面積				分米高	
		町	反	畝	歩	石	
年貢地	田	71	3	8	13	1,126	278
	畑	46	3	7	22	461	645
	新開畑		1	7	15	0	175
	田畑合計	117	8	3	20	1,588	098
	屋敷(1)	4	1	8	13	54	396
	屋敷(2)	6	2	3	10	74	800
	屋敷合計	10	4	1	23	129	196
年貢地合計	128	3	5	13	1,717	294	
除地	山	56	4	4	00	4	000
	穴織大明神社境内		2	7	反2畝余		
	呉服大明神社境内			1	反7畝余		
	天神社境内				9畝余		
	稻荷大明神社境内				3畝余		
	大広寺境内		10	町8反3畝余			
川欠けその他				若干			
その他	川・川原・町中の道・路地・街道・墓地などか?						

※メートル法への換算は行っていない。下記の概略式を参照。
面積:1町=10反=100畝≒10,000㎡=1ha。1畝=30歩(坪) 1歩(坪)=3.3㎡
体積:1石=10斗=100升=1,000合=180ℓ。米1石≒150kg
庄全体の高は田・畑・屋敷に山年貢を加えた1,721石2斗9升4合とされている。